

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 6 回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・自主的審議につなげるための高土区の現状分析について（公開）

3 開催日時

平成 28 年 10 月 7 日（金）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

3 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
中嶋真一、樋口義昭、日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子
（欠席 1 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

・会議の開会を宣言
・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

・挨拶

【小林主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

- ・会議録の確認者：中嶋委員

議題の「自主的審議に繋げるための高士区の現状分析について」に入る。前回の会議ではワークシートを基にフリートーク形式で意見交換を行った。今回はあらためて委員全員から考えや想いを発表していただきながらテーマの絞り込みを行い、高士区地域協議会として取組む自主的審議のテーマを決定したいと思う。はじめに、本日の進め方について事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.1により説明

【飯野会長】

今ほど事務局から説明があったとおり、本日は資料No,1に沿って進めていく。はじめに資料中の「ステップ①意見交換」に入る。ここでは、前回の会議で宿題となっていた「ワークシート」に記載した内容を基に、「高士区の未来予想図や願望、それに対する課題」について皆さんの意見を発表していただきたい。

【飯野正美委員】

何年か前から、建入委員と一緒に、「旧高士中学校の跡地を活用して、地域内外の方が集まって好きなことを行えるような場所をつくりたい」と話している。例えば、葡萄畑があってワインづくりが体験できたり、子どもたちが安心して安全に遊べる公園があったりすれば地域の方はもちろん、外からも人はやって来ると思う。身近にそのような場所がある高士をつくりたい。今まではお酒を飲みながら夢を語っている程度であったが、それが地域協議会の中で話せるようになり、本当に実現すればよいと思っている。

【金子委員】

私は高士区を農業改革特区にして、「どぶろくの製造」や「農薬散布ができるドローンの活用」ができるようになればよいと考えている。こういった特色があることで企業が農業参入しやすくなると思う。

また、夢の話かもしれないが、高士区には岩の原葡萄園があるので、葡萄やワイン造りをはじめとした農業や産業が学べる専門学校を誘致できれば、高士区は発展していくと考えている。

【小林委員】

私は、地域外に向けた田植えや葡萄狩り、稲刈りなどの体験ツアーを開催すること

で、高士の認知度を高めていきたいと考えている。また、飯野委員が言われたように、旧高士中学校の跡地を活用できたらよいと思っている。例えばグラウンドに子どもたちが遊べる遊具があったり、ドッグランも面白いと思う。

【中嶋委員】

地域協議会の中だけでこれだけのアイデアが出ているのだから、高士区に住む皆さんに投げかければ、もっと沢山のアイデアが出てくると思うので、地域の皆さんの声を聞いてみたい。

【樋口委員】

高士区の子育て中の皆さんを何とか支援していきたいと思っている。そうすることで、小学校の児童数減少による統廃合等に歯止めをかけたい。そのためにまずは、子育て中の皆さんが何に困っているのかを聞いていかなければいけないと思うので、意見を聞ける場が必要だと思う。我々ができることで何があるのかを、現実的に考えていかなければいけないと思う。

また、地区内外の人が集まる場が必要だと思う。昨年からはまったキャンドルイベントは非常に良いイベントだと思う。このイベント以外に高士区では、体育大会、ふるさと高士まつり、敬老会などがあるが、どれも地域内に向けたイベントであって、外から人が来ることはほとんどない。地域内のイベントも大切だが、高士区を知ってもらうためには、外から人が集まるキャンドルイベントのようなイベントを実施していかなければならないと思う。

あとは、スポーツの観点からも何かできる事がないか考えてみた。高士区には幼年野球チームはあるが、小学生のバレーボールチームはないので、つくりたいということも考えたが、子どもの人数が少なくて、小学校のほとんどの子どもが加入しないと試合に出られないかもしれない。いろいろとやりたいことはあるが、課題も多いと思っている。

【日向委員】

私は、高士区を子育てしやすい地域にしたいと思っている。今は近くに子どもたちが1日中遊べる施設がないので、保育園の行事等でも市外までバスを利用して行っている。例えば、高士区の中に子どもたちが遊べる施設があれば、地域内外の子育て世代が集まるし、高士区で子育てする人は増えると思う。私が以前行ったことのある施設は、農業体験やピザ作りができたり、バーベキューをするスペースもあった。子ど

もたちが自然の中で思いっきり遊べる施設はとても魅力的だ。

また、旧高士中学校跡地を子どもたちのためにもっと活用できないか検討したい。

今は他の団体の予約がたくさん入っていて、高士幼年野球チームが使いたくても使えない状況だ。

【細谷委員】

私は、高士区に農産物の直売所があればよいと思う。この辺りは野菜を作っている人が多く、自分たちだけでは食べ切れないという家庭も多いが、その一方で車を使って高士区外まで行かないと野菜を買えないという家庭もある。身近な地域で作った野菜を手軽に買える直売所があれば、地域の交流拠点にもなるし、よいと思う。

【横川委員】

おそらく、高士区が劇的に変わることは難しい。しかし、地域の人が気軽に「高士を何とかしたい」、「こんな風に変えたい」などと話せるようになることで、少しずつ良い方向に変わっていくのだと思う。

そのために私たちが、若い人から高齢者まで沢山の人が話し合う場をつくり、テーマを投げかけたりしながら、地域に関心を持っていただくことが必要ではないか。

【横山委員】

最近の地域協議会はとても活発的になったと思う。高士区が何となく楽しくなりそうだという期待がある。この波に乗って、何か新しいことを始めても面白いと思う。前回の協議会で、高士区の人口推移のデータを見たが、このままだとどんどん人口が減っていくので、若いご家族が移住してくれたり、何か魅力のあるまちづくりをしていかないと、小学校が廃校になる恐れがある。まずは子育て世代の皆さんの意見を聞いていけばよいと思う。だが、若い人の意見だけではなく、高齢者が生きがいを持っていくことがこれから大切になってくると思う。高齢者をゲストでお呼びして、野菜の作り方や高士の伝統など、何か教えてもらったりコミュニケーションがとれる場があったらよいと思う。

遠くまで行かなくてもよいように、旧高士中学校の跡地などを利用して、お茶飲みする場や、新鮮な野菜を手に入れられる場になればよいと思う。昨年、若い人との意見交換会を行って、そこからの意見でキャンドルイベントが出来あがっていった。そのように、地域協議会の場だけでなく、地域の皆さんと意見交換会を行い、高齢者や子育て世代が何を望んでいるのかを上手く吸い上げながら、まとめていければよいと

思う。

【青木副会長】

高士区のコミュニティを維持していくためには、高士小学校が必要であると思っている。しかし、小学校は近いうちに複式学級になるかもしれない。人口推移のデータを見ても、もう少ししたら高士区の人口が600人から700人くらいに減ってしまう可能性がある。高士区がこれから先も存在し、周りの地域から「高士は元気だね」、「高士はいい所だね」と言ってもらえるような地域をつくっていくために、私たちが今できる事を地域全体で考えていく時期だと思う。

【飯野会長】

私の夢の話になるが、高士がずっと発展し続けるために、農業やワイン造り等に特化した学校をつくりたい。ノーベル賞を受賞するような先生が来るような特区学校が理想だ。学校ができれば、若い人が集まって来る。また、高士区の農業も発展していく。夢物語ではあるが、そうなったら高士の未来は明るいと思う。

次に実現可能な話をする。高士地区には少し前まで商店があったが、今では地域の外まで行かないと買い物ができない。今は車を運転できるので、買い物に行くのは不便ではないが、あと10年したときに、車も運転できないかもしれない。そうなっても安心して生活できる地域をつくりたい。今、婦人会で地域活動支援事業を活用して「お買い物ツアー」を実施しているが、買い物そのものも大切だが、お年寄りが外の空気を吸いに行くことも大切なので、「お買い物ツアー」を浸透させたらよいと思う。

皆さんからいただいたご意見を集約すると、「農産物の直売所・農業特区」、「子育て」、「旧中学校の利用方法」の3つの大きなテーマに分けられると思う。

【飯野正美委員】

旧高士中学校の跡地は本当に良い場所だと思っている、隠れ家的な場所なので、色々なことができる場所だと思う。

【飯野会長】

個人的な話だが、旧高士中学校の裏側の畑には私の土地もある。市外の方に貸したりもしているが、活用されていない部分も多くもったいないと思っている。なので、旧高士中学校の跡地と併せて活用できないか検討したい。

【金子委員】

沢山の意見が出ているが、どの段階で住民の皆さんと意見交換をするのか、決めな

くてはいけないと思う。市として決まった時期などがあるのかを知りたい。

【飯野会長】

地域の皆さんと意見交換をするタイミングだが、今は委員の中でも意見が沢山あってまとまっていないので、もう少し意見を絞り込んでからの方がよいかという気もする。しかし、協議会の中だけでもこれだけ沢山の意見が出ていることを地域の皆さんから知っていただき、地域の皆さんのご意見も伺ってから、絞り込むという方法もある。

【小林主事】

事務局から補足させていただく。自主的審議のテーマを決めるために地域の皆さんとの意見交換を行う時期は、地域協議会の判断で決めていただきたい。今ほど会長が言われたように、地域協議会の中でテーマを絞り込んでから、そのテーマに沿って意見交換を実施する方法もあれば、早い段階で意見交換を実施し、地域の皆さんの意見を参考にしながらテーマを絞り込む方法もある。

ちなみに、前期の地域協議会では、「持続可能な地域コミュニティのあり方」という具体的なテーマを決め、意見交換の対象者も「子育て世代を中心とした若い世代」と絞って実施した。

【飯野会長】

今ほど事務局から補足説明があったとおり、まずは地域の皆さんと意見交換を行うタイミングを決めたいと思う。2つのタイミングが考えられるが、皆さんはどうしたいか意見を聞きたい。また、地域の皆さんと言っても対象者が多いので、対象者の絞り込みを行うかも併せて検討していただきたい。

【横川委員】

私は、テーマの絞り込みを行う前に、地域の皆さんと意見交換を実施した方が良いと思う。意見交換会の中で、地域の皆さんからの新しい意見もいただけると思うので、それらの意見も参考にしたいからだ。

【中嶋委員】

意見交換の対象者について、前期は「若い世代」に絞ったという事だが、今回は絞らないで幅広い世代の方から集まっていただき、意見を聞いてみたい。

【青木副会長】

最初はテーマを絞ってから意見交換をした方が良く思っていたが、私たち委員が

考えていることを地域の方に知ってもらいたいし、前回の会議で勉強した「高土区の人口・世帯に関するデータ」も地域の皆さんに見ていただきたいので、テーマを絞り込む前に意見交換をするのも良いと思った。

【金子委員】

前期は、対象者を若い世代に絞って意見交換会を開催しているが、どのような方法で参加者を集め、実際に何人くらい集まったのかを知りたい。

【飯野会長】

まずは、若い世代が所属している団体に依頼し、それぞれの団体から2名程度、若い人を推薦してもらい、その方々と打合せ会を行った。そこで「どのようにしたら若い人が参加しやすいか」などを話し合った。その結果、回覧板や硬い文書は見ないことが多いという話になり、なるべく楽しそうなチラシを作り、地域協議会委員と打合せの参加者で、直接お願いして回った。大変な部分もあったが、意見交換会には想像以上の方から出席していただき、キャンドルイベントの実現に繋がった。

【飯野正美委員】

何人くらい集まったのか。

【小林主事】

手元に資料がなく、正確な人数をお伝えできないが、お配りした資料 No. 2 の写真が意見交換会の様子である。高土地区公民館の大会議室で行った様子なので、こちらを参考にしていきたい。

【飯野会長】

前期は若年層、子育て世代を中心とした住民で意見交換会を実施したが、今年度もそのようなパターンにするのか、それとも先ほど中嶋委員が言われたように、対象者を限定せずに行うかも決めたい。

【飯野正美委員】

中嶋委員が言われたように、まずは幅広い世代の方と意見交換をしたい。今回の地域協議会委員はバランスよく各世代の方がいるので、それぞれが自分と同じくらいの世代の方に声をかければ幅広い世代の方が集まるのではないかと。

【横山委員】

私も、今の段階では幅広い世代を対象とした方が良いと思う。その中である程度テーマが見えてきたら、そのテーマに沿った方に集まってもらえばよい。また、前回の

意見交換がきっかけで、キャンドルイベントが開催されたように、今回も何か楽しいイベントの実施に繋がってほしいと思う。

【横川委員】

案内の文書は硬いイメージのものではなく、楽しそうなチラシにした方が良く思う。

【飯野会長】

地域活動支援事業で誕生した「高士のイメージキャラクター」を活用してチラシを作ればよいと思う。

【中嶋委員】

今までの話を聞くと、テーマと対象者の両方を絞らない方向だが、話が膨らみ過ぎて収集がつかなくなることが考えられる。

【横川委員】

確かに心配はあるが、最初なのでまとまり切らないほど意見が出るもの良いかもしれない。

【飯野会長】

まずは幅広く開催してみて、2回目以降でテーマと対象者を絞っていきたいと思うがどうか。

(「よし」の声)

では、案内の方法も決めたいと思う。

【飯野正美委員】

回覧板に出欠票を付けたらどうか。私の町内では、誰かが名前を書くとそれにつられて書く人が多い。

【横山委員】

最初の人を書いてくれればよいが、書いてもらえなかった場合、その町内からは0人という事も考えられる。

【横川委員】

大変かもしれないが、委員が自分たちの地区を1軒1軒回って、皆さんにお願いしますと手渡しした方が、協議会の宣伝にもなるし、活動していることを知っていただくことにもなる。

【飯野会長】

町内回覧も行うが、委員の皆さんからも手配りをお願いしたい。その両方で参加者を集めたいと思う。

話をまとめると、第1回目はテーマと対象者は絞り込まないで、多くの世代の方から参加していただく。案内の方法は回覧と委員の手配りの両方で行うこととしたいがよいか。

(「よし」の声)

また、案内のチラシは事務局で案を作成していただき、次回の会議で詳細を検討したい。

その他(1)「雄志中学校の生徒との意見交換会について」事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・開催日の報告：12月4日(日)午後1時～3時 津有地区公民館 大会議室
- ・10月中旬に出欠の案内を送付予定

【飯野会長】

- ・次回の協議会：11月22日(火)午後6時30分～ 高土地区公民館 中会議室
- ・会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-5111 (内線1449、1547)

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。